

高原だより

発行

阿毘縁自治会
阿毘縁むらづくり協議会

電話/FAX 87-0909
平成30年 3月
(通巻146号)

平成三〇年度

定期総会開催



阿毘縁むらづくり協議会、阿毘縁自治会の全事業を終え、三月九日(金)には平成三〇年度の定期総会を開催しました。

阿毘縁むらづくり協議会・阿毘縁自治会の二〇一九年度の事業報告・決算の承認、三〇年度の事業計画・予算案の承認がされました。

二十九年度の事業は、鳥取大学の学生協力の下、御墓山(猿隠山)に樹木銘板の設置調査・境港市民の山の猪壁門扉設置を行いました

盆行事・文化祭・その他各部の事業は地域の皆さま方のご協力のお陰で無事成功する事が出来ました。

三〇年度は役員改選の年であり、役員選任委員会から推薦された方が承認され、新体制でのスタートとなります。

新役員は下記のとおりです。

阿毘縁むらづくり協議会 阿毘縁自治会

新役員紹介

○ 会長	荒金 敏文
○ 副会長	影山 敏之 高柴 力雄
(副会長は総務部兼務)	
○ 総務部	坪倉 勝幸 生田 亨也
○ 保健福祉部	荒金 敏江 足立 進也
○ 文化学習部	林 富実代 加納 晴美
○ 消防防災部	大塚 厚 福馬 一夫
○ 監査委員	山城 博邦 岸 幸利
部員の報告は次号にて	藤原 哲哉

ご挨拶 荒金 敏文

この度の総会、役員改選で会長に任命されました。荒金敏文です。

打診があったときは悩み、考えましたが地域の皆様から「今まで役員も経験しており頑張ってみろ。みんなで協力し合っていこう」と言ってくれました。その言葉を戴いたので、頑張っていこうと思ひ引き受けました。2年間よろしくお願い致します。

この書面を借り私の気持ち・考え・抱負など皆さんにお伝えしたいと思います。阿毘縁の現状は人、地域性などよく承知しておられるので、あえて言いませんが、問題点は問題として捉えて少しずつ解決できればなと思っています。

まず1つ、阿毘縁には若い方が多くこの数年間積極的に地域活動に参加をしていただけるようになり、少しずつ盛り上がってきているかなと感じています。さらに若い人の考え、活動で活気ある阿毘縁にして頂きたいと思っています。

次に地域の方にはもっともっと阿毘縁会館に来ていただけるとうれしく思います。雑談、お茶のみ大いに結構です。その話の中で「こうすればもっと楽しくなるのになあ」と思われるはずです。皆さんで盛り上がる阿毘縁にしていただけると確信しています。

最後になりますが、役員も大幅に変わり、また事務長、集落支援員も新しい方が来られます。地域全体で楽しい阿毘縁にしていきましょう。

協議会活動記録

《3月》

6日：監査会

9日：定期総会

これからの予定

《4月》

4日：第1回役員会



狂犬病予防注射についてお知らせ

日時：4月10日(火)14:40~15:00

場所：阿毘縁地域振興センター

※ 町報2月号折り込み・ケーブルTVでもお知らせしております。



問い合わせ先

日南町福祉保健課(健康福祉センター)

82-0374

退任のあいさつ 荒金 実

この度のむらづくり協議会ならびに自治会の定期総会において、会長を退任することとなりました。

平成十七年、阿毘縁地域は山上地域とともに「まちづくり協議会」結成のモデル事業に取り組みました。全住民を対象としたアンケート調査を実施し、六つの検討部会を設けて熱心に協議を重ねました。その結果、平成十七年度よりむらづくり協議会を立ち上げ、平成十八年度に正式発足し、平成二六年度にはかねてより課題となっていた三自治会の合併も実現することが出来ました。この間三自治会を初め各種団体の役員の皆さん、旧阿毘縁公民館の支館長さん、地域振興センターの事務長さん、坪倉町議さんからは貴重な知恵をお借りし、またご尽力いただきました。紙上をお借りして改めてお礼申し上げます。

平成十七年度から事務局長、平成二二年度から協議会会長、平成二六年度から協議会と自治会会長、合わせて十三年間の関わりでしたが、この間私なりに留意してきたことについて記しておきたいと思えます。

○阿毘縁地域だけが「まちづくり」ではなく「むらづくり」と名付けたのは、「むら」の方が身の丈に合っているのではないかと、また住民により「邑」を形成し「群れる」ことで「知恵と力を出し合おう」という願いがありました。

○「高原だより」を毎月発行することに努め、地域の皆さんに情報を提供するとともに共有することを大切にしてきました。歴代の事務長さんには原稿や写真の収集、紙面の編集に携わっていただき、その苦勞に改めて感謝申し上げます。

○役員会のおおむね月一回の開催に心がけ、その上専門部の役員さんには部会の開催、イベントの実施などご尽力いただきました。その結果、他の地域と比べて派手さはないものの、年始のむらづくり懇談会、盆行事、文化祭、人権小地域懇談会、もみの木講座、防災訓練や防災計画の策定、環境整備など毎年確実にできたことを喜んでいきます。

○どこの団体においても、その代表者や役員は団体の目的のために自ら進んで企画し、取り組みをけん引する役割があることはもちろんですが、同時に皆が担ぎたくなるような「神輿（みこし）」でなければと思えます。

○この間の関わりの中で最も思い出となるのは、やはり平成二十年八月二九日の早朝に発生した降電被害とその対策への取り組みでした。詳しいことは「高原だより臨時号」に記録してありますが、むらづくり協議会と自治会の役員、農協や共済組合の関係者、何よりも農家の皆さんの知恵と頑張りにより、その後の生産意欲の維持につながる対策を実現することが出来たのではと振り返っています。自然による災害を防ぐことは容易ではありませんが、その結果生じる悲劇の拡大を防ぐことはある程度可能だと思います。この教訓をこれからも生かしていくことが大切だと思います。

思いは尽くせませんが、ご協力いただいた皆さんへの御礼とともに、むらづくり協議会、自治会を初め各種団体の発展と地域の皆様のご健勝を願い、退任のあいさつとします。

阿毘縁の皆様ありがとうございました。

25年度より阿毘縁地域振興センター事務長として地域の皆様方には、お世話になりました。

5年間ではありましたが、顔も名前も分からないところから地域の方々が暖かく迎えて下さり、地元生山より顔も名前も覚えさせていただき阿毘縁の一員になれたと思える5年間でした。一人職場ではありましたが、地域の方々が度々様子を見に来て下さり、茶の誘いなど声を掛けて下さったことで、心細くなることも無く地域に入っていたのかなと思えます。地域住民・役員の皆様の支えがあってこそその5年間でした。

25年度から自治会世帯数も1年に3件のペースで減っていく厳しい状況の中、会長・役員さん筆頭に頑張ってもらいました。人数に限りがある為、一人当たりの負担は大きくこれから更に厳しくなると思われませんが、そういった中でも「むらづくり」への住民の皆様への知恵・ご協力をお願い致します。

阿毘縁地域は私の第二の故郷とっております。5年間ありがとうございました。

阿毘縁地域振興センター 毛利裕嗣